

## 本年度の重点目標

知・徳・体の均衡のとれた未来を拓く人材を育成するために、次の4点を推進する。  
 ①学力向上と自学自習を育む学習指導の推進 ②人間力の向上と自主自律を育む教育活動の推進  
 ③個性の伸長と進路保障の取組みの推進 ④家庭や地域との連携による開かれた信頼される学校づくりの推進

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	校長は、生徒や保護者の要望にかなった特色ある学校づくりを推進している。	A		
	H P、オープンH i、報道資料提供、保護者説明会等により積極的に学校情報を発信している。	A		
2 学習指導	生徒の意欲や思考を引き出す授業改善に努め、主体的、探究的な学びを提供している。	A		
	適切な課題や小テストの実施等により、家庭での学習の習慣が確立するよう指導している。	A		
3 生徒指導	遅刻や服装・頭髪、挨拶の指導など、生徒の基本的な生活習慣が確立するよう指導している。	A		
	交通マナーや情報端末の利用方法等、社会規範やルールを守る態度を育てる指導をしている。	A		
	定期的な生活調査などで、生徒の実態把握に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	A		
4 進路指導	希望進路実現に向け、教科指導の改善と補習講座の充実に取り組んでいる。	A		
	生徒の希望進路が実現するよう、きめ細かい面談指導や適切な情報提供に努めている。	A		
5 特別活動等	生徒の実態や学年段階に応じ、ホームルーム活動や学校行事に工夫を加えている。	A		
	生徒の文武両道を支援し、学習時間を保障しつつ、緩急ある指導で部活動の充実を図っている。	B		
6 学校図書館	適切な広報活動により生徒の読書意欲を喚起し、居心地の良い図書館づくりに努めている。	A		
	教科指導やL H Rなどと連携し、図書館の積極的活用を進めている。	A		
7 保健・安全指導	学校生活の安全を図り、事故、怪我、病気等には迅速・適切に対応している。	A		
	適時に広報等を行い、生徒が進んで、自らの健康を大切にする意識を育てるよう指導している。	A		
8 人権教育	生徒が明るく生き生きと生活できるクラス・学校づくりに努めている。	A		
	人権アンケートや統一L H R等により人権教育を組織的・計画的に行っている。	A		
9 環境教育	ゴミの分別収集や減量化を推進することで、校内美化に努めている。	B		
	日常の掃除や大掃除・除草作業等の活動により、生徒の美化意識を育てている。	B		
10 事務・管理	保護者をはじめとする、外部からの電話連絡や来訪、問い合わせ等に丁寧に対応している。	A		
	施設や設備の整備により、生徒の学習環境を整え、適切に点検整備を行っている。	A		
11 その他 学校の取組み	P T Aと、よく連携・協力し、広報誌発行や学園祭の活性化などに積極的に取り組んでいる。	A		
	S S H事業や高大連携事業により、生徒の学びへの意欲や進路意識を高めている。	A		

(注)・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価(自己評価)の公表(8月までの教育活動に対する中間評価)A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、

あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。